

令和4年度

天 白 川

改修事業の推進と早期完成に関する要望



平成12年9月12日 東海豪雨

愛知県天白川整備促進期成同盟会

天白川は、愛知県日進市に源を発し、名古屋市南東部を流下し、東海市との境で名古屋港に注ぐ延長21.5km、流域面積118.8km²の二級河川であります。

下流部においては、東海豪雨後の「河川激甚災害対策特別緊急事業」により、大幅に治水安全度が高まりました。また、中上流部においても、平成23年度より野中橋から上流区間の工事に着手していただき、厚く御礼申し上げます。

現在、天白川では天白緑地橋上流付近までの整備が進められておりますが、平成23年9月の台風15号に伴う豪雨の折りには、未整備の中流部において河川水位が計画高水位を超えるような事態が発生しました。

また、天白川水系の流域は、開発による急速な市街化が進んでいます。近年は、名古屋市内において時間100ミリを超える豪雨が多数発生しており、降雨時の河川への雨水流出量が増加傾向にあるため、水害の危険性も高まってきております。さらに、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨など全国各地で甚大な被害が発生しており、もし東日本台風が天白川流域を直撃していたら、東海豪雨を超える大雨になっていた可能性があることから、天白川の治水安全度を向上させるために、河床掘削や堤防強化などの河川改修を推進する必要があります。

さらに、天白川の下流域は、海拔ゼロメートル地帯にあたり、昭和34年の伊勢湾台風では、名古屋市南区の白水、千鳥学区で高潮により900余の尊い人命が失われる甚大な被害が発生しました。この災害を契機に整備された河川堤防等により、多くの人命と財産が守られ、この地域は発展してきましたが、今後30年間に70～80%の確率で発生が危惧される南海トラフ巨大地震により液状化現象で堤防が沈下し、津波等による激甚な浸水被害が想定されます。このため、平成28年3月に策定（令和2年3月改訂）された「愛知県地域強靱化計画」に基づく河川堤防の耐震化を強力に推進していく必要があります。



高潮と流木で死者 660 人を生じた南区白水住宅一帯（『伊勢湾台風災害誌』より）

住民の生命、財産を守り、災害に強い安全・安心な社会基盤の形成を図り、民間投資を喚起するいわゆる「社会資本整備のストック効果」を発揮させるため、さらなる河道改修や地震津波対策の推進が不可欠であります。

愛知県におかれましては、天白川水系河川整備計画に基づき洪水対策を推進するとともに、南海トラフ巨大地震と津波に対する一層の対策をお願いするものです。

また、天白川につきましては、治水上の役割にとどまらず、市街地のなかに残る貴重な自然環境でもあることから、まちづくりと一体となって都市の魅力を向上させ、生活にゆとりとうるおいをもたらす役割を地域住民から期待されるようになってきております。

地域住民の期待をくんでいただき、都市河川におけるハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水被害対策が推進され、今以上に地域住民が安心して暮らすことができるようになるとともに、天白川が、住民の憩いの場として生活環境の向上に寄与する河川となりますことを念願し、次の諸点について要望させていただきます。

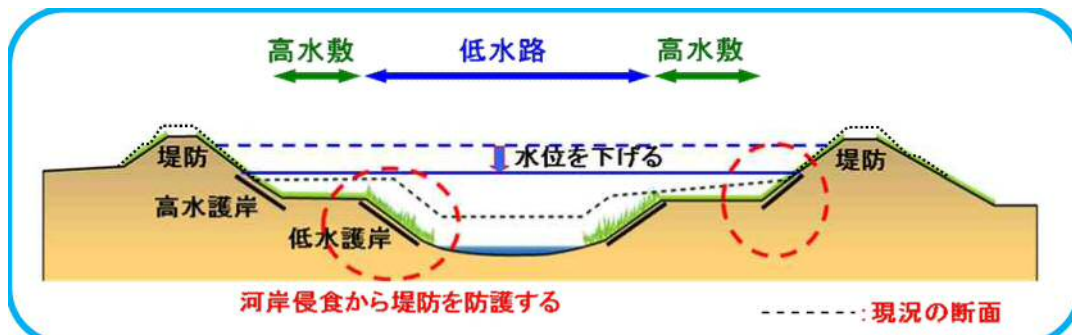
要 望 事 項

- 1 天白川水系河川整備計画に基づき天白川の整備を推進するために必要な予算を確保すること
 - (1) 治水安全度向上のため、洪水を安全に流下させることができるよう河床掘削等の整備を実施すること
 - (2) 南海トラフ巨大地震やそれに伴う津波に対して、「愛知県地域強靱化計画」に基づく必要な地震・津波対策を推進すること
 - (3) 市街地に残る貴重な自然環境としてその保全と創出に努めるとともに、市民にゆとりとうるおいを提供するための快適な水辺空間を確保すること
- 2 頻発化・激甚化が懸念される自然災害等から生命と財産を守るため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を活用し事業の推進を図ること
- 3 都市河川におけるハード対策・ソフト対策を組み合わせた浸水被害対策を推進すること

河川整備箇所 天白緑地橋上流区間



天白川の整備 イメージ図



地震・津波対策工事（東海市）



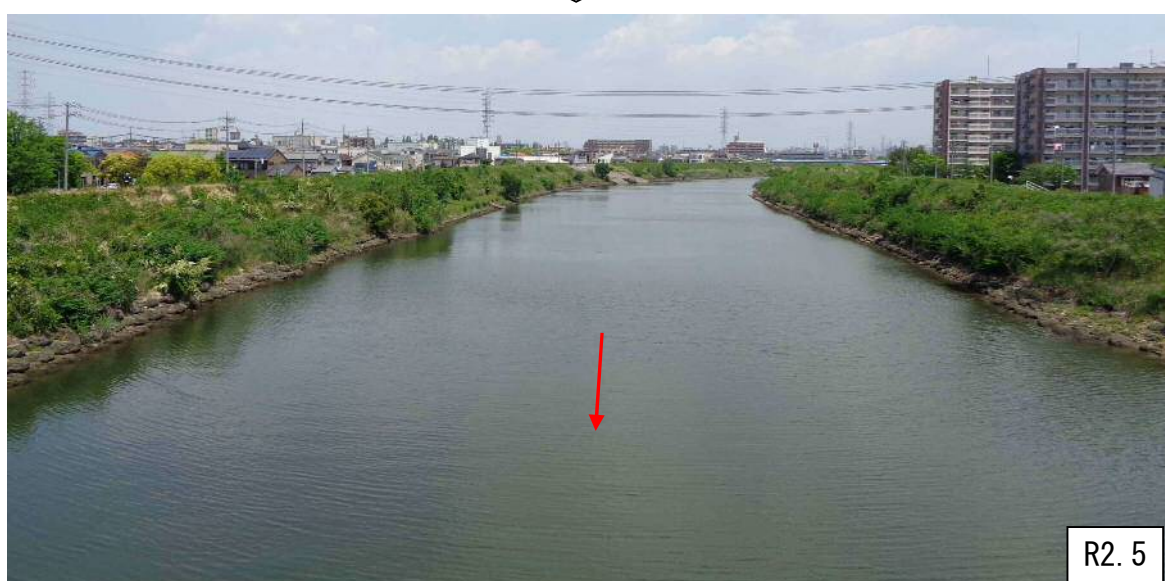
伐木撤去（日進市野方地区）



水辺空間の整備 ワンドの設置（名古屋市天白区）



河川整備 （河川激甚災害対策特別緊急事業 H12～16）



(星の宮人道橋より上流を望む)

◆愛知県津波浸水想定◆（平成26年11月公表）

対象地震・津波：あらゆる可能性を考慮した最大クラス（堤防75%沈下など最悪条件）



◆愛知県地域強靱化計画（抜粋）◆

《平成28年3月策定、令和2年3月改訂》

◎計画期間：平成27年度～令和5年度

◎基本方針：ハード対策の推進にソフト対策を組み合わせ
「何としても命は守る」

○ハード対策を進める上での軸となる地震・津波『過去地震最大モデル』
南海トラフで繰り返し発生する大規模な地震・津波
(数十年～百数十年に一度規模)

〔・天白川河口で想定される津波高：T.P. 3.6m
伊勢湾台風の実績による計画高潮位：T.P. 4.02m
(計画高潮堤防高：T.P. 5.0m)〕 ※河川整備計画等より

→現在の堤防の沈下を防ぐ耐震対策（液状化対策）を行う

○あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波『最大クラスの地震・津波』については、避難などのソフト対策を軸とするなど総合的な対策で対応（H26.11 津波浸水想定公表、R1.7 津波災害警戒区域の指定）

愛知県天白川整備促進期成同盟会

会 長 名古屋市長 河村 たかし



副会長 東海市長 花田 勝重



監 事 日進市長 近藤 裕貴



天白川改修計画平面図

